

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>誇りと喜びを持てる学校 ～夢にむかって チャレンジ！ そしてあきらめない心をたいせつに～ 友達を大切にする子ども 勉強やスポーツに一生懸命取り組む子ども 自分の目標に向かい あきらめないでチャレンジを続ける子どもを育てる</p> <p>1. 安全で安心して生活できる学校 (1) 豊かな人間性と人権感覚にもとづき、ひとりひとりの教職員と子どもたちが人権課題の解決に主体的に取り組む、人権が尊重された学校をめざす。 (2) 子どもたちの命と健康を守るため、災害や感染症等に備え、事前のリスクマネジメントと危機管理に強い学校をめざす。</p> <p>2. 「確かな学力（学習への意欲や主体性、課題解決力）」を伸ばす学校 (1) 聴覚障がいの特性にあわせた教育活動を充実し、子どもたちの個性や能力等を最大限伸ばすことをめざす。</p> <p>3. 多様な就学・進路選択の実現 (1) 聴覚障がいの状況や本人、保護者の要望等に応える充実した進路指導をめざす。 (2) 幅広い進路選択に向けたキャリア教育の充実。</p> <p>4. 聴覚障がい教育の高い専門性を有する学校 (1) 深い幼児児童生徒理解に基づく指導により、個々に応じた聴覚障がい教育を充実。</p> <p>5. 組織的なセンター機能による地域支援 (1) 地域のニーズに基づく適切な支援活動により、地域（就学前、幼・小・中学校）における聴覚障がい教育の支援機能を果たす。</p> <p>6. 校内外の有機的な連携による学校運営 (1) 的確な学校情報の提供と PTA との連携による保護者の参画した学校運営をめざす。 (2) 幼稚部、小学部、中学部の一体的な学校運営をめざす。</p>

2 中期的目標

<p>1 安全で安心して生活できる学校</p> <p>1) 人権意識の向上と人権尊重の実践力の向上 ア きめ細かなコミュニケーションと深い子ども理解、組織的な指導体制による“体罰の根絶”。 イ いじめ予防プログラムの導入等、積極的な予防策の推進と、不適切な行動や人間関係のゆがみの初期段階での対応力の向上を図り「いじめゼロ」を達成する。</p> <p>2) 防災対策の充実 ア 災害時校内初期避難に係る備蓄物品の完備と津波（浸水）を想定した設備配置を確立する。 （・安否確認等の緊急時の連絡通信方法を整備する。） イ 校内の文字情報システムを整備（未設置教室、未設置特別教室に設置）し、緊急対応力を高める。</p> <p>3) 健康安全管理の徹底 ア 感染症、熱中症予防及び食物アレルギー対応に係る実効性のある全校的な管理体制を強化する。</p> <p>4) 教育コミュニティづくりの推進 ア IKUNOネイチャーランドの活動を再検討し、地域との交流、連携を推進する。</p> <p>2 学力の保障と向上</p> <p>1) 学校経営推進費を受け ICT を整備・活用し、視覚を大切にした『見て、感じて、実現へ～聴覚障がい児への情報保障及び日本語力・学力・生活力の定着』をめざし「見てわかる授業」づくりを推進する。 ア 全教室に据え置き型の電子黒板・書画カメラを整備する。 イ 校内無線 LAN の教室への配備率を 100%にするとともに、全教室に PC を整備する。（現状 約 50%） ウ 全教科のデジタル教科書を配備し、ICT 活用の授業効果を最大限に高める。</p> <p>2) 各種コンクール等への“一人ひとつチャレンジ”を達成・定着し、幼児児童生徒の学習意欲を向上させる。</p> <p>3) 蔵書管理システムを図書館以外にも全校化し機能充実させるとともに、読書推進計画を策定し、児童生徒の読書活動を活性化させる。</p> <p>3 就学進学への接続点での支援の充実とキャリア教育の充実</p> <p>1) 幼稚部、小学部、中学部の進路選択に関して、卒業後のアフターフォロー等により進路先情報の集積と分析を図り、教育相談機能を向上させる。</p> <p>2) 幼稚部、小学部、中学部で系統的なキャリア教育を構築するとともに、体験的な活動を拡充する。</p> <p>4 聴覚障がい教育の専門性を高め、教員の資質を向上させ人材を育成する。</p> <p>1) 授業研究、校内研究会を推進し外部研究会、研修会へ積極的に参加するなど、専門性の高い人材を育成する。 2) ICT 活用能力、教材開発を進め教員間での授業研究、日常的に研修・研鑽を進め授業力を高める。 3) 10 年目経験者研修のメンタリングを取り入れ初任教員を育成する。</p> <p>5 いくの聴覚言語センター（IDIC アイディック）の機能を整備し、地域支援・保護者支援を充実させる。</p> <p>1) 通級指導教室を充実させ地域支援のニーズにこたえる（巡回指導、相談、理解啓発授業の実施） 2) 地域支援部と連携し 地域支援・保護者支援に努める。</p> <p>6 交流をキーワードにした学校運営の改善</p> <p>1) ニーズに基づく情報発信を再構築（内容、媒体の整理）し、学校の情報発信力を高める。 2) 学部を超えた交流事業の拡充と学部を横断する業務の校内組織の見直しを図り、効果的効率的な学校運営で教育活動の質を向上する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○新たに「いじめ」「道徳教育」に関する項目を追加した</p> <p>○回収率：児童生徒 100%、保護者 80%、教職員 100%</p> <p>○児童生徒肯定率：（昨年%→今年%） 小学部 81%→84%↑、中学部 69%→86%↑ ・特に中学部で学校生活全般に楽しいと思える生徒が大幅に増えた。行事クラブ等の活発化が一因と思われる。</p> <p>○保護者肯定率：幼稚部 91%→93%↑、 小学部 86%→89%↑、中学部 78%→76%↓ ・中学部において生徒の肯定率大幅増に反して保護者の肯定率は下がった。学校の連絡や連携などの保護者への説明・広報不足が原因の一部と思われる。</p> <p>○教職員肯定率：84%→87%↑ ・全体的に上がっているが、非定率の多いのは「各部署の一体化」「交流の活発」「地域支援」「教育相談」であった、すべて連携に関する項目で校内での改善が課題である。</p>	<p>第 1 回（7 月 13 日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの事象の芽を摘み取ることも必要だが、お互いが交流を深め理解していくことが大切。 ・ICT 機器の活用が進んでいるが、今後自分で生きていける力を身につけてほしい。 ・手話言語条例の制定を契機にコミュニケーションを考え、新しい専門性を築いてほしい。 <p>第 2 回（11 月 16 日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部児童も中学部生徒も「①学校に行くのが楽しい」が 100%はすごい。 ・「チーム学校」に加え、「チーム地域」が大事だが、今回の自己診断では、「チーム学校」がきちんと進んでいるという印象を受けた。 ・学校通信の配布以外での公報について保護者の了解を得た上で前向きに検討をお願いしたい。 <p>第 3 回（2 月 20 日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校自己診断は児童生徒と教職員の回収率 100%を続けることが大事。 ・中学部になると生徒は親に話さない、メールマガジンやブログを発信しては。 ・今回の自己診断では、「チーム学校」がきちんと進んでいるという印象を受けた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
安全で安心して生活できる学校	(1) 体罰防止いじめ防止等 人権侵害に関して教職員の意識を向上させる	<p>ア 体罰防止対策の組織的な指導支援を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導上の問題点を定期的に学年団で共有し、サポート体制を確立するとともに、体罰防止委員会で学部を越えた支援を充実する。 <p>イ 系統立てたいじめ予防を積極的に進めるため、発達段階に応じた「学習プログラム」(傍観者を出さない、個性の理解、感情のコントロール等)の導入を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止教職員研修の実施 ・不適切な行動や人間関係のゆがみの初期対応力の向上を目的とした研修を実施する。 <p>ウ 体罰防止・人権研修の実施(3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討研修 ・参加型研修 ・生徒指導力向上のための研修等を実施する。 <p>エ 問題事象の早期発見活動の着実な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰セクハラ届出票の対応(通年)、体罰防止チェック票の活用(年2回) 	<p>ア 保護者向け学校教育自己診断項目「学校は体罰防止に取り組んでいる」の肯定率を昨年並み(H28 91%)</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断項目「学校はいじめ防止等 人権尊重に基づいた教育をおこなっている」肯定率昨年度並み(H28 85%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止教職員研修の実施(年1回) <p>ウ 教職員向け学校教育自己診断項目「人権尊重に基づいた指導が行われている」の肯定率を昨年度並み(H28 85%)</p> <p>エ 継続した実施(通年)、チェック(2回)</p>	<p>ア →今年93%(2ポイントUP)、教員チェックを年2回から1回に、今後いじめと同組織で(○)</p> <p>イ いじめ防止法により、いじめの捉え方等を変更した。今年は80%、無回答が16%と多いので、結果等の広報が必要(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ研修を年2回行った(◎) <p>ウ →今年89%(4ポイントUP)、教科道徳の導入など今後研修も含め積極的に取組む(○)</p> <p>エ 計画通り実施、体罰セクハラとも届出がなかった(○)</p>
	(2) 地震・津波等 防災対策の充実	<p>ア 災害時の地域連携を進める</p> <p>ア P T A防災委員会と連携し防災対策を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプミーカード(電話お願い手帳)の活用を促進し児童生徒向けの活用方法講習の実施 ・備蓄物品を充実(生活用品)させ有効な循環を行う。 ・地域防災組織と連携し、地域防災活動の学校からの参加連携を進める。 ・緊急時(安否確認)連絡方法の確立 NTT 災害伝言板による通信方法を活用(J - a n p i 等) <p>イ 聴力障がい者への緊急情報保障の推進として文字情報システムを拡充する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府教委と連携したシステムの継続的検討を ・地域聴覚障がい者への情報発信の拠点づくり <p>ウ 防犯教育を推進し幼稚部、小学部、中学部の子ども達に合わせた防犯教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察、生野区(地域まちづくり課)と連携した、防犯教室の開催(年6回) 	<p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の災害時対応に関する項目の肯定率昨年度並み(85%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプミーカード(電話お願い手帳)の活用促進。活用方法の講習実施。(小 高学年、中 全学年) ・備蓄品の有効な循環を実施(防災の日 年1回) ・教職員向け学校教育自己診断の危機管理に関する項目の肯定率76%を80%以上 ・全クラス(全保護者)での居住地域の避難場所の確認(緊急連絡先に追記) <p>イ 設置済の教室等への文字情報システムの緊急時の活用を進める(避難訓練時、平常時の活用の整備)</p> <p>ウ 交通安全教室、薬物乱用防止講習等警察と連携し実施昨年度並み(年6回) 不審者対策教室の全職員での実施</p>	<p>ア →今年89%(4ポイントUP)、大災害初期対応マニュアル作成今後具体的な対応訓練実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小は授業で実施、中はアプリ活用のお知らせをした。(△) ・新たなSNSの通信対応が課題 ・新たにさすまた購入、ヘルメット循環購入を新たに実施(◎) <p>→今年84%(8ポイント大幅UP)、分掌再編による学部間をまたいだ計画の実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問時に記載(△) <p>イ 今年度システム点検し緊急時に活用可と確認できている(○)</p> <p>全システムの起動の訓練が課題</p> <p>ウ 生野警察署・市役所イクミンパトロールと連携、例年通り実施 職員さすまた講習実施済み(○)</p>
	イ 情報確保に取り組む	<p>ウ 防犯教育に取り組む</p> <p>ア 教育コミュニティーづくりで地域と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、小学部で地域幼稚園、地域小学校と交流(年6回) <p>ア 感染症・食中毒防止、熱中症対策を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビペン使用緊急時マニュアルを充実する。 ・エビペン講習会の実施(年1回) ・医療的ケア委員会、アレルギー委員会、給食委員会の整備 ・安全な給食実施のための設備の良好な維持管理をはかる 	<p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の地域交流に関する項目の肯定率昨年度並み(H28 74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの広場の開催 内容を充実させる(年1回) <p>ア エビペンマニュアルの充実、講習会を実施し緊急時に対応する。昨年並み(年1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置した各委員会で迅速な対応をするために3委員会を「食に関する委員会」に整備 ・安全な給食実施のための設備の確認昨年度並み(年2回) 	<p>ア →今年85%(11ポイント大幅UP)、交流会に向けて教員同士の打ち合わせ会も実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアボランティアで実施 校長ブログに様子記載(○) <p>ア 例年通り実施、特に食物アレルギーの対応を通達により充実 対応生徒の周知と理解課題(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回の会議で3委員会を順次開催、負担感減少(○) ・幼稚部の配膳を調理職員で、春夏に設備の確認済み(○)
	(3) 地域社会と連携を深め地域の幼稚園、小学校と交流を深める	<p>イ 情報確保に取り組む</p> <p>ウ 防犯教育に取り組む</p> <p>ア 教育コミュニティーづくりで地域と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、小学部で地域幼稚園、地域小学校と交流(年6回) <p>ア 感染症・食中毒防止、熱中症対策を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビペン使用緊急時マニュアルを充実する。 ・エビペン講習会の実施(年1回) ・医療的ケア委員会、アレルギー委員会、給食委員会の整備 ・安全な給食実施のための設備の良好な維持管理をはかる 	<p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の地域交流に関する項目の肯定率昨年度並み(H28 74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの広場の開催 内容を充実させる(年1回) <p>ア エビペンマニュアルの充実、講習会を実施し緊急時に対応する。昨年並み(年1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置した各委員会で迅速な対応をするために3委員会を「食に関する委員会」に整備 ・安全な給食実施のための設備の確認昨年度並み(年2回) 	<p>ア →今年85%(11ポイント大幅UP)、交流会に向けて教員同士の打ち合わせ会も実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアボランティアで実施 校長ブログに様子記載(○) <p>ア 例年通り実施、特に食物アレルギーの対応を通達により充実 対応生徒の周知と理解課題(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回の会議で3委員会を順次開催、負担感減少(○) ・幼稚部の配膳を調理職員で、春夏に設備の確認済み(○)
	(4) 感染症・熱中症対策、安全な給食をめざす	<p>イ 情報確保に取り組む</p> <p>ウ 防犯教育に取り組む</p> <p>ア 教育コミュニティーづくりで地域と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、小学部で地域幼稚園、地域小学校と交流(年6回) <p>ア 感染症・食中毒防止、熱中症対策を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビペン使用緊急時マニュアルを充実する。 ・エビペン講習会の実施(年1回) ・医療的ケア委員会、アレルギー委員会、給食委員会の整備 ・安全な給食実施のための設備の良好な維持管理をはかる 	<p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の地域交流に関する項目の肯定率昨年度並み(H28 74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの広場の開催 内容を充実させる(年1回) <p>ア エビペンマニュアルの充実、講習会を実施し緊急時に対応する。昨年並み(年1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置した各委員会で迅速な対応をするために3委員会を「食に関する委員会」に整備 ・安全な給食実施のための設備の確認昨年度並み(年2回) 	<p>ア →今年85%(11ポイント大幅UP)、交流会に向けて教員同士の打ち合わせ会も実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアボランティアで実施 校長ブログに様子記載(○) <p>ア 例年通り実施、特に食物アレルギーの対応を通達により充実 対応生徒の周知と理解課題(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回の会議で3委員会を順次開催、負担感減少(○) ・幼稚部の配膳を調理職員で、春夏に設備の確認済み(○)

府立生野聴覚支援学校

学力向上	<p>(1) 学習の充実のために I C T 機器を活用「見て、感じて、実現へ」(見てわかる授業づくり)</p> <p>(2) 幼児児童生徒の学習意欲を向上 一人ひとつチャレンジ</p> <p>(3) キャリア教育の充実</p> <p>(4) 生活指導を充実させる</p> <p>(5) 図書館の環境整備と読書活動を推進し言語獲得に活かす</p>	<p>ア 学校経営推進費を受け、電子黒板、書画カメラ等 ICT 機器を活用した視覚を重視したわかる授業を展開 (全学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部の効果的な教室に電子黒板・書画カメラを設置し (10 台) 授業を展開する。 デジタル教科書 (国語・音楽において 9 学年) を導入。 ICT 機器 (電子黒板、デジタル教科書) を用いた学習のスキルを高めるための研修会を実施し (年 2 回) I C T 機器活用への理解及び充実をはかる。 研究授業の実施 (年 1 回) ・校内無線 LAN の配備拡充 <p>ア 一人一人の基礎学力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習、長期休み中の補習・補充授業の充実を図る。 中学部での観点別評価に基づく指導を充実する <p>イ 学習意欲の向上をめざし各種検定へのチャレンジ、各種コンクール等の外部評価へ応募を積極的に推進する</p> <p>ア 多様な就学・進路選択の指導支援を幼稚園・小学部卒業時、中学部は入学時から進路支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談、体験交流、見学会・説明会への参加等細やかな情報発信 (1 年中随時) 新たな高校入試制度に対応した進路指導の実施 <p>イ 各部に応じたキャリア教育を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアマトリックス (一貫したキャリア支援の構築) を作成 キャリア講演会を開催 個別の教育支援計画の様式を再検討し各学部の引継ぎに活用する。 中学部において「職業体験」を実施し進路指導に活かす。 <p>ア 生活指導・生徒指導の充実させるためにクラブ活動への意欲を高め基礎的な社会的ルールを身に着けることに活かす。</p> <p>ア 図書館の整備と図書活動の活性化のために蔵書数の増加、蔵書管理システムの校内共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本の場所がわかりやすい配本や新刊本のレイアウト等工夫する <p>イ 絵本の読み聞かせボランティアを活用し、読書活動の活性化を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部で読書推進計画の検討・策定。 	<p>ア 電子黒板、書画カメラの活用率を 3 割増</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員「I C T 機器活用」電子黒板・書画カメラ、デジタル教科書の活用を 3 割増 校内研究授業を実施 (全校対象各部で実施) (年 1 回) 外部講師による機器活用講習会 (年 2 回) <p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の授業に関する項目の肯定率昨年度並み (H28 74%)</p> <p>イ 小・中学部生徒の言語力を高めるため作文や俳句にチャレンジ (2 割参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部模試、漢字検定、英語検定等を活用 (児童生徒の 3 割参加) 全国合奏コンクール入賞をめざす 絵画・読書感想文・作文コンクールなどに応募 (児童生徒の 3 割) <p>ア 保護者向け学校教育自己診断の進路に関する項目の肯定率を 80%以上</p> <p>イ 児童生徒向け学校教育自己診断のキャリア教育に関する項目の肯定率昨年度並み</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアマトリックスを活用しキャリアバンクを整備 統一した個別の教育支援計画の様式を再検討し充実させる 職業体験を実施 (年 1 回) 受け入れ先との連携 (2~4 社) <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目の肯定率 70%以上に</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部活動の大会にチャレンジ (全員が参加) 校内清掃活動、あいさつ運動等の実施 (毎月 1 回) 生徒朝礼での生徒指導情報の発信 (週 1 回) <p>ア 借りやすいシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 蔵書の確認、バーコードの整備 (夏季に実施) 必要な蔵書の整備 (蔵書を増やす) <p>イ 読み聞かせボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度並み (年 24 回) 図書貸し出し数の増加 (2 割増) 	<p>ア 寄付により台数が増え (書画カメラ 6 台、スクリーン 5 台) 活用がさらに促進する</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート 0.8%増活用 (△) 12 月に各部で実施 (○) 今後成果をまとめる方向 3 回の講習実施し充実した (◎) 報告冊子の作成が課題 <p>ア →今年 83% (9 ポイント大幅 UP) さらに個々の指導課題 (○)</p> <p>イ 中学部作文全員参加 (◎) 小学部俳句 6 割 (34 名) 参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検漢検本校開催、中は 7 割 小は 3 割参加、今後も継続 (◎) 合唱コンクール選考落ち (△) 中述べ 37 名、小 75 名、応募、約 5 割の児童生徒が応募 (◎) <p>・昨年 77%→今年 81% (4 ポイント UP) (○)</p> <p>イ 昨年 73%→今年 75% (2 ポイント UP) (○) どう進路に繋がるか説明必要</p> <ul style="list-style-type: none"> バンクの実施できておらず、幼少保護者の高等部見学会など新たな取り組みは進んだ (△) 再検討済み (○) 職業体験を実施 (2 社) (○) 人数的に 2 社で実施 <p>・昨年 66%→今年 88% (22 ポイント大幅 UP) (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近畿陸上・バレー大会は全員で参加できた (○) 挨拶運動を計画通り実施した、話題の話しを毎週した (○) <p>ア 実施した、電子管理開始 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新本増やし宣伝、貸出増。教育大付属との連携で蔵書を頂き、交流も実施 (◎) <p>イ 読み聞かせ計画通り実施 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 527→2323 (貸出 4 倍増) (◎)
専門性の向上	<p>(1) 教員の授業力・資力の向上</p> <p>(2) I C T 活用能力、教材開発を進める</p> <p>(3) 初任教員の育成</p>	<p>ア 教員の専門性・資力の向上をめざし授業研究を活発化し力量向上を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者・10 年目経験者研究授業の実施 全校研究会を実施 (年 3 回) 校内新転任者研修会を実施と充実 (年 1 2 回) 教員の専門性向上のための研修環境の充実 <p>ア I C T 活用能力・教材開発において教職員の聴覚障がい教育の専門性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的指導力の向上のために発音指導・聴能指導・言語指導 幼児児童生徒個々の課題を検討する 各部で発音研修会、聴能研修会等を実施 (6 回以上) <p>ア 外部研究会・研修会に積極的に参加し専門性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育センター、普通小中学校の教科研等参加 発音発語研究会、近畿オーディオロジー研究会等へ参加 10 年経験者研修のメンタリングを取り入れ初任教員を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者・10 年目研修等研究授業の実実施回数 10 回以上 校内各部で手話、発音、聴能研修を実施のべ年 10 回以上 指導教諭の研修会を公開 (年 3 回) I C T 活用の研修会の実施 (年 3 回) 保護者向け学校教育自己診断の聴覚障がい理解に関する項目の肯定率昨年度並み (H28 90%) 専門性向上のための研修会に参加 (昨年度並み参加者は 3 割) 発音発語研究会の開催 (夏季 1 回) 年 2 回の研修会 近畿オーディオロジー研究会の開催 (夏季 1 回) と年 2 回の研究会 10 年目の教員と初任教員でメンタリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生も含め研究部を中心に計画通り実施 12 回 (○) 新学習指導要領対応が課題 発聴 3 回、手話のべ 46 回 (◎) 計画通り、また全国研究会 (全日聾研) でも発表 (◎) 計画通り、近畿の大会で発表 (◎) →今年 89% (1 ポイント DOWN)、本校を会場校にして本校教員も研修しやすくしている (○) ニーズの高い研修会、本校で実施、参加者 7 割 (◎) 計画通り実施 (○) どう授業に生かすかが今後課題 計画通り実施 (○) 全教員の聴能教育理解が課題 レポート等メンタリングの内容記載 (○) トータルな育成システムが課題

府立生野聴覚支援学校

地域支援の充実	<p>(1) 専門性の発揮によりセンター的機能を充実</p>	<p>ア 早期乳幼児の相談支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講座、体験保育、夏季子育て講座を実施し聴覚障がいのある入幼児支援、その保護者支援を行う。 ・市町村福祉部との連携し支援を行う。 ・病院・保健所との連携を推進 病院保健所訪問を行い聴覚支援学校の役割、支援について説明（年15か所以上） <p>イ いくの聴覚言語センターの整備と充実によりセンター的機能を発揮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級指導を充実させ通常学級に在籍する児童生徒の支援を行う。理解啓発授業の実施により地域の学校に在籍する聴覚障がいのある子ども達への支援を行う。 ・いくの聴覚言語センターとして広報に努め相談活動を充実させる。 ・地域支援部と連携し 地域支援を充実させる。 	<p>ア 子育て講座を週2回、体験保育を年間10回、夏季子育て講座を6回実施し、子育て講座の保護者の参加（のべ600人以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断の「医療と連携して指導にあたっている」に関する項目の肯定率昨年度並み（80%） <p>イ 通級生の指導を行う（約30名）、巡回相談、理解啓発授業の実施昨年度並み（30回以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解啓発研修を年6回企画、実施し聴覚障がいのある子どもを担当する教員への支援を行う（参加者200人） 	<p>ア 講座数を増やしきめ細かく支援していくのが今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施 参加人数→629人 (◎) 幼稚部教育相談82件 ・昨年82%→今年85%（3ポイントUP (○) スクーリングとの密な連携が今後の課題 <p>イ 予定通り実施</p> <ul style="list-style-type: none"> →62回実施（内通級訪問36回） 今後の課題 (◎) 担任・担当との関わり増やす ・案内地域を増やし、満員の研修会になっている（申込207人） （参加者196人） (○) 課題：広報の充実
学校運営の改善	<p>(1) 情報発信を再構築し保護者の学校活動への参画を促す</p> <p>(2) 学部間交流事業を拡充し幼稚部・小学部・中学部一体の学校をめざす</p> <p>(3) 校内組織の改善に取り組む</p>	<p>ア 情報提供の見直し保護者への情報提供を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校便り」の内容を充実させ情報提供媒体として活用。 ・学校HPの情報提供の充実と更新率の向上に取り組む。 <p>ア 学部を越えた交流行事を実施し、課題解決に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同部活動を実施し小学部児童が中学部生活への理解が深まるよう取り組む。 ・幼小の交流、幼中の交流を活発化する。 <p>ア 分掌改編等による機能的な組織づくりとして、8分掌の課題を運営委員会で検討し、より機能的な組織づくりに再編していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首席・部主事の定期会議を活用し学校運営を迅速に活性化していく。 	<p>ア 保護者向けの学校教育自己診断の情報提供に関する項目の肯定率80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校便り」の発行を年8回以上に ・学校HPの見直し <p>ア 小・中合同の行事として合同体育祭の実施（2年目）し内容を精選する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小、幼中の交流の実施（年6回） <p>ア 校務分掌体制の改編2年目として課題を整理し本格体制としていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部務分掌と校務分掌を整理。 ・教職員向け学校教育自己診断の校内組織の一体化に関する項目の肯定率65%以上 	<p>ア 昨年78%→今年84%（4ポイントUP (○) ・9回発行 (○) ・工事が遅れ、11月に全面リニューアル、校長ブログの新設 (○)</p> <p>ア 体育祭文化祭順調に合同で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事は楽しい（中学部生徒73%→100%） (◎) ・計画通り活発に実施した (○) 新たな学部間の交流が課題 <p>ア 部務主体でなく、校務分掌主体の起案ができるように、行事等の引継ぎや全体としての取り組みを確立するのが課題 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年64%→今年67%（2ポイントUP (○) 一体化の全体への周知が課題